

新入生研修 2018 について

北村 史（長崎大学大学教育イノベーションセンター）
前田裕介（長崎大学大学教育イノベーションセンター）
井手弘人（長崎大学教育学部）
内野成美（長崎大学教育学部）
及川大地（長崎大学教育学部）
大庭伸也（長崎大学教育学部）
大平晃久（長崎大学教育学部）
北浦剛資（長崎大学教育学部）
中川 泰（長崎大学教育学部）

I. はじめに

教育学部では、新入生ができるだけスムーズに大学生活をスタートできるよう、学生委員会が4月に日帰りの新入生研修を実施している。2015年度は長崎県池島炭鉱での研修を予定していたが、前日からの悪天候のため池島への訪問が中止となり、当日は福岡県太宰府市の九州国立博物館を訪れた。2016年度は長崎県池島炭鉱を訪問した。学生の評判も良く充実した研修になったようである。2017年度はフェリーが長期間故障のため、2015年度と同様に、九州国立博物館での研修となった。2018年度の新入生研修は、これまでの反省を踏まえ、学外を取りやめ、学内で実施した。2019年度以降も続けて学内で実施する予定である。本稿の目的は、学内で魅力的な活動として新入生研修を継続させるために、2018年4月に実施した新入生研修の内容を整理することにある。

II. 新入生研修の概要

○日時・場所

2018年4月4日（水）14:00～15:00〔於 教養教育棟 A-21〕

12日（木）12:50～17:40〔於 中部講堂、教育学部本館第5会議室、21・22・23・24・25・31・33・42・43番講義室〕

○参加者

1年生 241名、教職員 29名

○活動の流れ

「1日目」

- ・趣旨説明、グループの確認、到達目標の確認（15分）
- ・アイスブレイク（足し算自己紹介、共通点さがし）（20分）

「2日目」

- ・趣旨説明、グループの確認、到達目標の確認（15分）
- ・新聞の特徴分析（マンダラート作成）（15分）
- ・新聞の特徴分析結果の共有（ひとり5分ずつ話し、興味深い特徴、教材づくりや活動設計につながりそうな特徴を整理し付箋に書く）（35分）
- ・考えるべき活動の説明、ブレインストーミングのルール説明（10分）
- ・ブレインストーミング前半（20案）（15分）
- ・休憩、教育学部本館各教室に移動（10分）
- ・ブレインストーミング後半（20案）（10分）
- ・2つに絞って、より詳細な検討をする（活動設計ワークシート作成）（45分）
- ・発表のための準備（40分）
- ・プレゼンテーション（「5分発表、3分質疑、2分交代」を4回）、20班それぞれに教員がついて評価（50分）
- ・休憩、中部講堂に移動（15分）
- ・全員集合してまとめ（30分）

（1）活動の到達目標

本研修の活動計画に際しては、新入生相互の交流の機会を設けること、および教育学部生として学ぶための準備をすることを目的として、以下3点の到達目標が設定された。

- ①グループで目的を共有して活動するなかで、自分自身の考えを表現することができる
- ②グループの仲間として互いに配慮しながら、建設的な議論のできる関係になる
- ③素材の特徴を活かして、教材と学修活動を設計することができる

グループで取り組む課題には、教育学部で学ぶために必要となる授業設計に係るテーマを与えることとしたが、教科教育の専門性についてはこれから学ぶものであるため、今回の課題では問わないものとし、柔軟な発想を発揮するこ

とや思考を交流させながら答えを導き出すというプロセスに重きを置くことが実施計画者の間で確認されていた。

(2) 研修内容の設計

これら到達目標を達成するため、4名からなるグループを編成しグループの成員と互いに能力を発揮し合いながら協力して問題解決を進めていく課題に取り組むこととした。具体的には、新聞を素材として小学校もしくは中学校で実施する学習活動と遊びを企画することに取り組むこととした。学習と遊びの区別については定義の厳密さを求めるためではなく、企画の方向性を例示し考えるきっかけを示すために設定した。学習活動案を考えるにあたっては、グループで相談した上で教科や学齢を設定することとしたが、教科教育の單元などの理解がないことを前提とし、その精度は問わないと知らせた。グループで完成させた活動案は模造紙に概略を記載して口頭発表を実施することとした。

(3) 活動の実施

本実践は、長崎大学教育学部の2018年度新入生を対象として2018年4月12日に実施された。活動時間は合計270分間で10分程度の休憩時間が2回含まれた。受講者は241名で、12名からなる初年次セミナークラスの成員を事前に振り分け4名一組のグループをつくり活動に取り組んだ。一部のグループについては、欠席やクラス人数により3名ないし5名で編成されていた。活動中は、3グループをひとまとまりとなる初年次セミナークラスごとにクラス担任の教員が付き添い、助言を与えた。実施会場は、長崎大学中部講堂および教育学部教室であり、活動内容に応じて休憩時間に移動した。

活動は主に4つの部分からなっていた。1つ目は、活動の趣旨を理解し目標を確認する活動、2つ目は、素材の特徴を分析する活動、3つ目は、活動を設計するために議論する活動、4つ目は、案を発表して意見交換をする活動であった。

1) 活動の趣旨と到達目標の確認

活動の冒頭には、本実践で小学校もしくは中学校で新聞を素材として実施する学びの活動と遊びの活動を考えてもらうことを伝え、個々の活動の流れや時間配分を説明した。また前述の到達目標を確認して受講者に目標を意識して取り組むよう伝えた。その際、「長大生のためのラーニングティップス」(長崎大学大学教育イノベーションセンター 2018)に掲載されているディスカッションルーブリックとプレゼンテーションルーブリックを例示して、議論や発表においてどのようなパフォーマンスを目指すかを確認した。

2) 素材の特徴分析

素材として設定された新聞は、受講者にとっても身近なものであるが、そ

それを素材として利用する学びの活動や遊びを考えるためには、普段とは異なる視点をもって多角的に特徴を分析する必要があると考えた。そこで、物事を要素に分解したり派生させたりしてアイデアを拡散させていくための道具として有効な、マンダラート（今泉 1987）を使って新聞の特徴を分析する活動を実施した。9×9 マスの格子が印刷された用紙が配付され、全受講者が個々に新聞の特徴を分析、整理した。その後グループ内で意見交換を行った。

3) 活動設計の議論

素材とした新聞の特徴についての理解を踏まえて、学びと遊びの活動の設計を議論した。議論を開始する前に受講者には活動設計ワークシートが配付され活動設計の方針が示された。ワークシートには、到達目標、評価、活動内容の3項目が記載されており、それらを順番に埋めていくことで設計の大枠を考えられるようにした。3つの項目は、ウィギンズ&マクタイ（2013）の逆向き設計による授業設計の考え方を援用して設定したものである。

活動設計の方針を確認した上で、アイデアを広げ様々な可能性を検討するためにブレインストーミング（Osborn 1953）の時間を設け、グループで30～40案のアイデアを出し合うこととした。ブレインストーミングの開始の前にはそのルールが口頭で説明された。出されたアイデアはリストにまとめておくよう指示された。ブレインストーミング後、出されたアイデアの中から2つを選び、より詳細に活動内容を検討した。検討の際には活動設計ワークシートをA3用紙に印刷して配付し、グループで記入するよう求めた。

4) 案の発表と意見交換

最終的に完成させた2案について、模造紙を使い資料を作成して、他のグループに発表して意見交換をした。発表の準備にあたっては、完成させた案の説明だけでなく、グループの議論がどのように進み、どのような点に注目して案を完成させたのか、その過程を説明する内容を含めるよう求めた。

発表はポスターセッションの形式で行い、グループのメンバーが順番にそれぞれ1回ずつ発表することとした。自身が発表者ではないセッション回においては、他のグループの発表を聴くオーディエンスとしてセッションに参加することとした。セッションは1回を8分間（発表5分+質疑応答3分）とし、6グループが入った各教室内で4～5回行われ、教室内の全てのグループが相互に意見交換できる機会を設けた。質疑応答の時間には、発表された案をより良くするためにはどのような工夫ができそうかということについて話し合うよう求めた。

発表は、事前に説明した「プレゼンテーションルーブリック」によってオーディエンスが評価した。オーディエンスが記入したプレゼンテーション相互評価シートは発表者に渡し、グループに持ち帰るよう指示した。

発表を終えて全受講生が集合したところで、実践のふりかえりの時間を設けた。ふりかえりのためのシートに記入して、個人およびグループそれぞれの観点からの省察するよう促した。その際、冒頭に確認した本実践の到達目標に立ち返り、どの程度達成できたかについて考えさせた。グループでのふりかえりについては、各自がオーディエンスから受け取った評価シートの内容を確認するよう指示した。

[参考文献]

- ・今泉浩晃 (1988)、「超メモ学入門 マンダラートの技法 - ものを「観」ることから創造が始まる」、日本実業出版社
- ・ウィギンズ, G. & マクタイ, J. (西岡加名恵 (訳)) (2013)、「理解をもたらすカリキュラム設計 - 「逆向き設計」の理論と方法」、日本標準
- ・Osborn, A. F. (1953), “Applied Imagination: Principles and Procedures of Creative Problem Solving.”, Charles Scribner’s Sons

Ⅲ. 活動の成果とその分類

(1) 活動の成果物

270 分間にわたる活動の成果として、60 グループそれぞれが新聞を素材とした学びの活動と遊びをひとつずつの合計 2 つを立案し、模造紙ポスターとしてまとめた。一部紛失したものを除いて回収された案を集計し、分類したものを以下に示す。

○「学びの活動の設計案とそのカテゴリー分類」

新聞しりとり【言葉】

新聞しりとり【言葉】

しりとり【言葉】

Searching names【言葉】

新聞でしりとりをしよう【言葉】

新聞の中から熟語を見つけよう！【言葉】

文字探し・単語調べ！！【言葉】

切り抜き俳句づくり【言葉・表現】

Performance with Newspaper! ～君のことを新聞で伝えよう～【言葉・表現】

新聞写真で、うっ…！一言【言葉・表現・写真】

写真であいうえお作文【言葉・表現・写真】

想いを新聞にのせて【言葉・表現・デザイン】

横文字日本語にしたらどうなる？ゲーム！【言葉・外来語】

自分の言葉でまとめた新聞記事を世界地図に貼る【読解・地理】
新聞に書かれた地名を地図帳から探す【読解・地理】
地元のニュースマップを作る【読解・地理】
地域当てゲーム【読解・地理】
記事の中から見つけた国の位置を調べる【読解・地理】
1つの記事をまとめて発表（内容をふまえて写真に吹き出し）【読解・写真・言葉】

写真から世の中を知ろう！【読解・写真・想像】
写真でアフレコ【読解・写真・話し言葉】
記事から写真を考えてみよう【読解・写真表現】
ニュース深読み【読解・作文】
記事カルタ【読解・作文】
見出しは何だろな??【読解・表現】
気になる記事を発表（イラストつき）【読解・表現・時事】
実写版四コマ漫画【ストーリー】
ガイドさんになろう！【ストーリー】
新聞で劇を作ろう！【ストーリー】
4コマ目を何にする？【ストーリー】
幻の四コマ目!!【ストーリー】
四コママンガを埋めよう！【ストーリー】
写真をつなげて4コマ漫画【ストーリー・写真】
4コマ漫画に英語でセリフ付け【ストーリー・外国語】
同じ部首を探そう!!【文字】
文字探し【文字】
新聞で漢字学習【文字】
文字探し【文字】
漢字博士になろう!!【文字】
文字探し【文字】
新聞で頑丈な「物」づくり【造形】
新聞ポスター【造形・デザイン】
新聞でお店やさんごっこ【造形・計算】
パズルで学ぶ身近な問題【造形・時事】
身の周りで起こったことを記事にする【文章表現】
新聞を作成する【文章表現・デザイン】
新聞を学んで新聞を作る！【文章表現・デザイン】
この人だぁーれだ?【時事】
スクラップブック作り【時事】
ニュースを時系列に並べる【時事・調べ学習】

災害時の新聞活用法【知恵】
防災グッズ作り！【知恵】
足し算をしよう【計算】
時間の計算【計算】
連想ゲーム【連想】
写真・記事を用いた連想【連想】
擬似投資ゲーム【シミュレーション】
Focus on Number【数字・計算】
世界旅行へビュンビュン【地理・調べ学習】
Sound of ガサガサ【音楽】

○「遊びの活動の設計案とそのカテゴリー分類」

Run with Newspaper【運動】
新聞野球【運動】
新聞紙ボウリング【運動】
新聞を細長く手でちぎるゲーム【運動・コミュニケーション】
そだね～新聞カーリング【運動・コミュニケーション】
新聞をつかってスポーツの楽しさを知ろう！【運動・コミュニケーション】
乗ってみよ～う！【運動・コミュニケーション】
新聞乗りゲーム【運動・コミュニケーション】
新聞○×クイズ！！【運動・コミュニケーション】
新聞ボールリレー【運動・コミュニケーション】
一枚の新聞に何人乗れるか！！！！【運動・コミュニケーション】
チーム対抗ギュウギュウしちゃおうゲーム【運動・コミュニケーション】
新聞島ゲーム【運動・コミュニケーション】
よっこいしょ！【運動・コミュニケーション】
運命共同体おにごっこ【運動・コミュニケーション】
白と黒を使って動物を作ろう【造形】
新聞でいろいろな物をつくろう！！【造形】
3段のピラミッドを新聞で作ろう【造形】
モザイクアート【造形】
新聞で大きい紙飛行機づくり【造形】
モザイクアート【造形】
新聞でファッションショー【造形】
新聞でおもちゃを作ろう【造形】
新聞で洋服づくり【造形】
洋服を作ろう！【造形】
MAKING CLOTHES【造形】

新聞縁日【造形・計算】
言葉を考え、模型を作ろう【造形・言葉】
Secret House を作ろう【造形・コミュニケーション】
しんぶんらんど（新聞を使って友達と羽子板勝負！）【造形・運動】
ジグソーばずる【パズル】
新聞でパズル【パズル】
新聞パズル【パズル】
新聞でパズルをしよう【パズル】
新聞内しりとり【言葉】
新聞を横で読もうゲーム【言葉】
見出し5・7・5！【言葉・表現】
自分新聞（テレビ欄を使って自己紹介）【言葉・表現】
新聞記事で文を作ろう！【言葉・表現】
写真で一言【言葉・表現・写真】
四コマイマジネーション【ストーリー】
4コマ漫画の題名を考える【ストーリー】
ストーリー作り！【ストーリー】
ピクチャーストーリー【ストーリー・写真】
たった一つの物語【ストーリー・写真】
包んで、広げよう、乗ってみよう【触覚・想像力】
シルエットクイズ【触覚・想像力】
新聞のぼし【触覚・コミュニケーション】
文字並び替えクイズ！！【文字・コミュニケーション】
福笑い【コミュニケーション】
新聞で合奏しよう♪【音楽】
破る、たたく等の音を利用して数人で演奏する【音楽】
ジェスチャーゲーム【読解・写真・運動】
出して答えて落ちないゲーム【読解・創作・運動】
新聞紙で好きな作品をつくる【創作】
5W1H ゲーム【文章表現】

（2）成果物のカテゴリー分類

学びの活動と遊びの活動の別については、グループで決めたものであるが、出来上がった企画案を吟味すると明確に学びと遊びの区別をできないものも多かった。本実践においては、学びと遊びを区別するという特別な意図をもった分析をする目的はないためその点は不問とした。そのうえで、学びの活動と遊びの活動のそれぞれにおいて、カテゴリー分類を試みた。分類の結果、学びの活動については、言語運用能力に関連する活動が多く考案されていたことがわ

かった。一方、遊びの活動については、運動に分類できる活動や造形に分類できる活動が多く考案されていた。全般的な傾向としては、言葉、読解、ストーリー、運動、造形のカテゴリーに分類できるものの数が多く、これらのカテゴリーを含む案は、同時に別のカテゴリーの要素も含む複合的な活動として考えられている事例が多かった。

IV. 新入生研修へ参加した教員のコメント

(1) 日程について

「第一回目講義の後で、第二回目講義の前というのは、よいタイミングでした」
「平日でも構いませんが、講座会議等が定例である日は避けてもらいたと思います。今回の内容であれば、平日と言うことであれば、入学式前での開催でも OK ではないでしょうか」

「授業日で調整が大変だったのではないかと思います。平日開催だからこそそのメリットを多く感じました。次年度以降も可能であれば平日開催が良いです」

「木曜日 3 校時～5 校時ということで講座会議（第二木曜日 14：30～）と重なってしまった。そのため講座会議を前日にずらした」

(2) 内容について

「今年度の新入生研修はとてもよい内容であったと思います」

「参加した私にとっても学ぶことが多く、同じ方法（マンダラートやブレインストーミング）を、早速次の初年次セミナーの授業で使わせていただきました。ありがとうございました」

「各教室に分かれてからの学生の姿を見ていると、初年次セミナーのねらいのいくつかを達成できるものであったと思いました。昨年度からの大転換、中心となってくださった先生方のご負担は如何ばかりと頭の下がる思いです。本当にありがとうございました。より良くとの観点で絞り出すならば、次の 5 点でしょうか。

- ①この演習に対する学生の動機づけにもう少し時間を割く
- ②模造紙作成時、ペンセットを出すならば、各グループに 1 セットずつあると良い（6 グループに対し 2 セットの準備はしていただきましたが、譲り合って使うのも…と考え、こちらで急遽 4 セット加えました）
- ③発表者が発表しながらタイムキーパーをしなくても良い工夫
- ④コメントカードを簡素なものに（カードを埋める方に気をとられて誰も発表者の顔を見ていないことが…）
- ⑤講堂での最後の振り返りをする際、大学 4 年間の学びへのつながりと同時に、演習での学びが今後の初年次セミナーの内容にどのようにつながっていくか、について見通しがもてる話もあると良い（初年次セミナーについて全員が同

じ情報を得られる機会が、これまでほとんどなく、担当教員によって授業の進め方や内容も異なるため、現4年生、3年生の中には、初年次セミナーが何をねらった授業なのかも分からないまま受け身で過ごしていた学生もいて、もったいないと思いました)」

「過年度に行っていた研修旅行よりも、内容的にも新入生同士の親睦の意味でも有効だったと思う」

「新聞発の“遊び”と“学び”ということで内容的には面白かったが、資料と齟齬があったり説明が不十分だったりしたので、改善は必要」

「プレゼン発表のための準備は、新入生にとっては初めてなので、時間的な余裕が欲しい」

「新たな試みで企画者は苦労があったと思うが、おおむね好評だったと聞き良かった」

「新入生研修としては、学生に一定の達成感もあったであろうし、まずまず成功であったと思う」

「新入生研修には初めて関わらせていただきましたが、新聞を素材にしたワークショップ形式で、学生たちも積極的に動いていたし、これまでの研修旅行よりも十分意義はあったのではないかと感じました」

「大学内の環境に早くなじむということ、これから多くの授業を共にする仲間と顔なじみになるということにおいて、非常に有効であった」

「教員と新入生同士の交流。それまで興味なかったことについて、しかもほぼ見知らぬ他者と協働してアイデアを出し合うこと。同じ教育学部とはいえ専攻もまちまちである他の学生たちと一緒に作業することは意義があった」

「プレゼンテーション慣れ。これは高大接続的にも、また初年次セミナーの導入としてもよかった」

「初年次セミナーのアイスブレイクとしての意義は大きかったと思う」

「最近の学生にとってなじみが薄くなったと思われる新聞を素材としたことは評価できる。ワークショップ形式で学生自身が活動したこと。特にマンガラート作成、ループリックの手法は刺激になったのではないか。最後に各グループでプレゼンテーションを行い、これから始まる学生生活への良い契機となった」

「主体的な学習スタイルの面白さ・重要性、教育学部の学生としての使命感、他者にわかりやすく伝えるための方法が学べた」

「新聞と接することが少ないので、接する機会になった」

「グループでまとめる力を養うきっかけになった」

「時間内に終わらせることの大切さも学んだと感じる」

[付 記]

新入生研修の企画・準備・運営で大きな支援をしていただいた学務の小松倫子氏と橋口隆氏に対して厚くお礼申し上げます。